



## 総会は盛会裏に終了

数年がかりの準備のもとで開催された IUGG2003 札幌総会は、6月30日に始まり7月11日をもって盛会裏に終わりました。参加者総数は約4300人、参加国約70か国で、過去の IUGG の中で最も多くの参加者と参加国の総会になりました。アジアで行われた最初の総会という点でも関心を集めたものと考えられます。心配された SARS 問題も何ごとも無く、札幌総会は無事終了しました。

7月2日、新しい施設の札幌コンベンションセンターにて天皇皇后両陛下をお迎えして歓迎式典が行われ、多くの出席者が広い会場を埋めました。式典での天皇陛下のお言葉では、自然災害予防の科学および地球科学の進歩に対する期待が寄せられました。

気象関係の IAMAS は、他のどの協会よりも多くの参加者があり、盛会でした。ただ、総会の研究発表全般において、キャンセルも少なからずあって、セッションの進行に多少の問題も生じたようです。研究発表に関して少し残念に思う点は、ポスター会場が主会場からやや離れた場所で、掲示時間帯と口頭発表との整合性が必ずしも最適ではなかったようでもあり、それら

の結果、人の集まりがよくなかったことです。

次回の IUGG2007年総会は、開催地がペルーシア(イタリア)と決定しました。一方、IAMAS2005研究集会については、北京において、「8月前半」に開催されることも承認されました。

なお、本総会の詳しい内容は、今後の「天気」に総合的に報告されることになっています。

本総会開催に当たって、学会会員の皆様にはご寄付の協力を頂き、ありがとうございました。先月号に報告した以後に寄付をお寄せ下さった方々は、以下のとおりです。

\*対象1の会員(参加登録費私費負担および不参加者)

山本 勝, 竹村行雄

(以上2名, 小計30,000円)

\*対象2の会員(参加登録料公費負担)

栗原宣夫, 神沢 博, 吉崎正憲,  
二宮洸三, 大野裕一, 田中 博

(以上6名, 小計160,000円)

(上合計190,000円, 累計1,277,000円)